

江崎知事 × 岐南町立岐南中学校

若者未来デザイン会議with学校給食 開催概要



(知事と参加者の皆さん)

1. 日 時

令和7年9月22日（月） 11:45～13:25

2. 場 所

岐南町立岐南中学校

3. 参加者

①第1部 若者未来デザイン会議

テーマ：いじめを生まない環境づくり ～私たちが「自ら動く」～
生徒会役員・元役員の皆さん 6名
江崎知事、未来創成局長、義務教育総括監

②第2部 給食・懇談

2年7組の生徒の皆さん 34名
後藤友紀岐南町長、田中勝士岐阜県議会議員、伊藤直輝校長
江崎知事

4. 第1部 若者未来デザイン会議



○生徒の皆さんからの提案

テーマ：「いじめを生まない環境づくり ～私たちが「自ら動く」～

【提案までの活動】

- ・岐南中学校は、令和4年度「全国いじめ問題サミット」に参加。
- ・それをきっかけに、その後も3年間にわたり「いじめ問題」と人権に関する取組みを進めてきた。
- ・学校全体で取り組んできた学習やディベートなどから、**社会に出た時に「人権問題に立ち向かえる力」**を付けるには、「自分ごと」として捉え、「自ら動く」ことが重要であるという結論を得た。
- ・昨年1月の能登半島地震の際、自分たちだけが充実して楽しい生活を送れば、それで良いのかと考え、生徒自ら募金活動を企画し、行動に移した。岐南中学校だけでなく、町内の3小学校、岐南駅、岐阜女子高等学校（岐南町）で募金活動を実施し、696,590円の募金を集め、昨年3月に石川県珠洲市教育委員会に直接贈呈することができた。
- ・その後、有志生徒により、珠洲市でボランティア交流活動を実現し、今年も実施する予定。
- ・そして、「なぜ、被災した珠洲市の方達はこんなにも強く、温かくいられるのだろう」と考え、全校生徒で意見交流などを行い、「地域のつながり」が大切であることを学んだ。

- ・こうした活動や学習を踏まえ、学校から地域に活動を広げて、地域に貢献する様々な取り組みを実施。

(取り組み)

- ・地域を巻き込んで行った、あいさつ活動やリサイクル活動
- ・保育園で園児に作成した絵本の読み聞かせや、合唱披露による交流
- ・地域の公園等での草引きや遊具のペンキ塗り
- ・スポーツや合唱を通じた高齢者との交流
- ・地域の行事へのボランティア参加やブース出展

- ・「いじめを生まない社会」をつくるためには、相手の気持ちを聞く、話し合いを重ねるなど、人と人がつながることが大切。
- ・中学生が地域に出て活動することは、新たな交流を生み、地域みんなが対話する環境を作ることにつながる。

【知事への施策提案】

- ・私たちの取り組みは、中学校から始まり、活動を岐南町に広げてきた。
- ・こうした活動をもっと広げていくことで、いじめを生まない取り組みが県内全体に広がるのではないかと思います、「県内全域に自分たちの活動を広げ、中学校同士が交流できる施策」を提案。
- ・キーワードは、「発信」と「交流」。

①「発信」

- ・地域の皆さんや県民の皆さんにも、中学生の考えや活動を知ってもらうことで、中学生が中心となり、地域や県をよりよくしていくことができる。そのため、県が主体となって、コンテンツごとに中学生の活動を発信する場を作ってほしい。
- ・また、どのように発信すると良いのか、ノウハウを教えてもらえるような、著名な講師から、発信の方法や資料作成、紹介の仕方などのノウハウを教えてほしい。

②「交流」

- ・年に1度、例えば「これからの岐阜県に私たちができること」といったテーマで県内の中学生が集まって、情報交換や意見交換ができる場を設定したい。
- ・私たちは岐南町や岐阜県が好きで、これからも住み続けたい。
- ・少子化や人口減少などの多くの課題があることを知り、なんとか岐阜県に魅力を感じ、これから住み続ける人や、移り住みたいという人を増やすことができないか考えた。
- ・県内の中学生が集まり、交流することで、同世代の仲間の様々な考えを知り、中学生が中心となって岐阜県のことを考えることで、これからの岐阜県を創るためのよりよい活動が生み出されていくと考えた。

○義務教育総括監（岐阜県教育委員会）のコメント

- ・皆さんの提案はすごくいい考えであり、岐南中学校の取組みはすごく良い。
- ・この提案を大人が簡単に進めてしまうことが、皆さんにとって良いことになるのかなと考えた。
- ・皆さんから「巻き込む」というワードが出てきたが、まさにその通り。岐南町の3小学校とも、地域とも、岐阜女子高校とも一緒に取り組んでこられたのは、まさに皆さんの熱意があってこそ。その熱意をもって、周りを巻き込んでほしい。
- ・（教育委員会としては）君たちが進んでいくのをサポートできないかと強く思っているところ。
- ・皆さんの取組みや願いを示したデジタルデータを提供してもらえれば、県教育委員会のホームページで、皆さんの活動や思いを紹介したいと考えている。
- ・さらに、皆さんが持っていないチャンネルとして、校長会や教育長会などで、最優先で皆さんの思いを伝えることで、皆さんの活動が県内の他の学校の刺激になるようサポートはできる。
- ・また、いじめについて考える先生（生徒指導主事）の会議で、皆さんが望むのであれば、来年度発表できる機会を作ることも検討したい。

○未来創成局長のコメント

- ・「発信」は、まさに岐阜県庁の課題でもある。
- ・県民の皆さんに理解していただくためには、ホームページだけでは足りないなので、SNSやショート動画なども駆使して取り組んでおり、私たちもまさに「発信」については考えているところ。
- ・現在、10代の皆さんがSNSを利用している状況は、YouTubeが95%、Instagramは75%、TikTokは65%となっている。
- ・私たちは、皆さんの世代にも伝えることがたくさんあるので、私たちもどのように発信すると効果があるのか考えていこうとしているところ。
- ・講師の話が出たが、発信に関する方法やノウハウは、私たちも取り組んでいる途中。
皆さんの提案について、教育委員会と相談し、岐阜県で取り組んでいる情報を共有しながら、一緒に考えていきたい。

素晴らしい施策の提案、ありがとうございました！

いただいた意見や提案については、今後県施策に活かすため、検討を進めていきます。
反映結果は参加した皆さんに報告するほか、県ホームページ等で公表します。

（年度末を予定）

○知事のコメント

- ・「なぜいじめは起きるのか」、実は皆さんの発表に答えがある。
- ・人が幸せになるために一番簡単で確実な方法は、「誰かを幸せにすること」。
- ・皆さんは、この活動をする時に幸せな気持ちになっている。そういう時に人はいじめをしようと思わないもの。人は不安な時にいじめてしまうもの。
- ・皆さんからの「発信」と「交流」という提案は素晴らしいので、是非、岐阜県でも取り組んでいきたい。
- ・そして、「自ら動く」という点が良い。義務総括監が言ったとおり、やってくれるのを待つというのはもったいないと思う。
- ・大人が皆さんのやって欲しいことを先回りしてしまうのは、皆さんの幸せを奪ってしまうことになる。皆さんが自らやってよかったと思うこと自体が、この世界からいじめがなくなることに繋がる。
- ・社会に出て大事なことは「交流」をするということ。自分が良いと思っていることが本当に良いか、人の話を聞いてみることが大切。
- ・これから教育委員会の皆さんと相談していくことであるが、いじめなどが起きない取組みとして、異年齢で学んでもらう仕組みを考えている。同じ学年だと目立たない生徒もクラスのリーダーになり、下の学年など「誰かのために」動くことの喜びを感じることができる。この取組みを広げていき、この国全体を変えたいと考えているところ。
- ・皆さんは、日本最大の課題の答えにたどり着いている。そのことが本日は大変嬉しいことであった。皆さんが答えを探そうとしている姿勢が大事。
- ・自分が幸せになる確実な方法は、誰かを幸せにすること。それができれば間違いなく素晴らしい社会になる。

5. 第2部 給食・懇談

○当日の給食

- ・ちくわとかぼちゃの天井（麦ごはん）
麦ごはんの米は、岐阜県産ハツシモ
- ・ほうれん草ともやしの胡麻和え
ほうれん草、もやしは岐阜県産
- ・茄子の味噌汁
茄子は岐南町産
- ・冷凍みかん
南濃みかん
- ・牛乳
美濃酪農農業協同組合「ひるがの牛乳」



○懇談の様子



- ・2年7組では、「総合的な学習の時間」の授業で「地産地消を広めよう！ねぎっちょプロジェクト」に取り組まれています。
- ・生徒の皆さんからは、岐南町の特産物である「徳田ねぎ」について、その特徴や、より広めるための新メニューの開発、地域のお祭りでのPR、生産者を応援する取り組みなど、幅広い活動を発表いただきました。
- ・また、この活動は昨年度から取り組まれており、生徒が考案した徳田ねぎを使った「ねぎみそチーズトースト」は、給食の献立として採用され、生徒達にも大変好評であったそうです。
- ・懇談では、こうした活動への質問のほか、給食の好きなメニューや、もっと出てほしいメニューなども話題になり、生徒達からは、タルトやイチゴなど、デザートが充実して欲しいといった声もありました。
- ・生徒の皆さんに「給食は好きですか」と聞くと、皆さんが口をそろえて「好き！」と答え、岐南中学校の皆さんの給食への思いが伝わってきました。